

中国における重点大学の先導的事例にみる教養教育 改革に関する研究

史, 媛媛

<https://doi.org/10.15017/1654628>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	史 媛媛			
論文名	中国における重点大学の先導的事例に見る教養教育改革に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊尚夫
	副査	九州大学	准教授	白土 悟
	副査	九州大学	准教授	Edward Vickers
	副査	九州大学	教授	加藤和生
	副査	広島大学	教授	黄 福涛

論文審査の結果の要旨

本論文は、現在の中国における重点大学の教養教育（中国語：通識教育）改革の実態を、先導的事例の分析を通して、そのカリキュラムと教育組織の両面から明らかにしたものである。本研究では初めに改革開放以降の中国の通識教育改革の背景と現状を考察し、通識教育改革の諸要因を文化的、政治的、経済的、教育的、国際的側面から析出した。次にこれを踏まえ、改革の参考とした米国の一般教育モデルに基づき抽出した3つの事例大学において、それぞれの通識教育改革に関連する行政側、教員側、学生側への聞き取り調査と、通識教育カリキュラム編成、シラバス、時間割や授業観察の分析を行った。これにより本研究は中国の通識教育改革の実態の分析において、マクロ（国家課程、海外の一般教育理念等）、ミドル（大学改革、組織とカリキュラム構造等）、ミクロ（授業実践と学生評価等）の三層に分けた分析アプローチを融合させ、通識教育改革の全体像を明らかにしている。本研究はまた、学院、書院教育を通じた教育組織と全学カリキュラムを類型化し、人間形成論の対立・葛藤状況にまで踏み込むことで今後の中国の通識教育改革を展望している。加えて、米国からの受容においてその賛成論と反対論から改革理念と実態との齟齬を明らかにしたことは、比較教育学における教育借用と受容に関する研究および中国高等教育における教養教育研究に新たな知見を加えるものであると評価できる。よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。